

令和元年度 調布市立第四中学校 学校評価報告書

様式1

■ 学年	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度 重点目標
学 力 向 上	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの配置で、視聴覚機器の活用が授業に広がった。 ・生徒同士が、相互の意見を受け入れ、評価し合うことで、学習意欲を高揚させた。偏りなく、多くの生徒が均等に発言、意見発表できるよう、発問を工夫した。 ・教科、総合的な学習の時間、道徳、学活の時間に、多くの教員が、生徒同士が協議する時間を設定した。 ・全授業で、ねらいを明確に示し、それに即した評価を行った。しかし、東京都学力向上を図るための調査で、「授業のねらいが明確でない」という結果なので、改善の必要がある。 ・「指導と評価の一体化」に重点を置いた教育活動（授業、部活動等）に取り組み、意欲向上を図った。 ・「分かる授業」でできる授業」を推奨し、喜び体験を伴った計画を実施した。土曜日授業参観（年6回）で実感を体験。地域に開放し、アンケートで成果を確認した。 ・「主体的・対話的で深い学び」を活用した授業形態を、日常的授業より多く活用した。 <p>【不登校対応教室及び特別支援教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会を定例（年間30回以上）に開催した。適切な情報交換を行い、指導に役立った。 ・不登校対応教室「よつば相談室」の活動を拡大実施した。週5日の開設と支援員（約9名）を確保した。 ・不登校対応教室の設置によって、完全不登校生徒（自宅に閉じこもる生徒）はほぼいなくなったが、不登校対応教室に安心し、通常学級への復帰が遠い生徒の復帰促進指導のシステム作りが求められる。 	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動アンケートで、「評価」「楽しい授業」等で、教職員の見聞と生徒の感想に数値的差異（教員が甘い評価）が気になる。 ・少人数学習別授業やITの協働で、先業教員の授業を見学したり、 ・授業同士が指導方針について協議することは、若手教員にとっても重要なことである。 ・生徒同士が意見交換し、励まし合うことはとても良い。 ・自分の意見を正々堂々と発表できることが、本校生徒の長所である。 ・今年生徒の自己評価（授業・生活・環境等）が、他学年と比較して高かった。 ・低いことが気になる生徒が非常に多い。 ・授業に集中している生徒が多い。 ・小集団の話し合い活動が多く取り入れられた授業が展開されている。 <p>【不登校対応教室及び特別支援教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対応教室の設置によって、不登校生徒が減少したことは素晴らしい。 ・特別支援教室の運営をさらに工夫して頂きたい。特別な支援を必要とする生徒の減少を望む。 	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用が、「学力の定着」につながるように、活用方法を研究する必要がある。 ・タブレットの活用が、「生徒の興味関心を引く」ことにのみ集中している。タブレット学習の利点を最大限活用する授業方法の開発を研究する必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び」の活用が、多くの授業に広がっている。研修会を通じ、活用成功体験を周知したい。 ・遠征授業研究を通じて身に付けた、「主体的・対話的で深い学び」を活用した指導法を、教科授業の中で活用することを、意欲をもつ。 ・教職員から励まし言葉を多く生徒に伝える。自分の生活（学習・部活動・委員会活動）に自信をもてるように、適切な評価を行い、生徒の自己有用感を高める。 ・授業の進め方をより明確にし、生徒の学習意欲を高める。 <p>【不登校対応教室及び特別支援教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対応教室の設置によって、完全不登校生徒（自宅に閉じこもる生徒）はほぼいなくなった。不登校対応教室に安心し、通常学級への復帰が進まない生徒への復帰促進指導の確立が求められる。 ・合理的配慮を進化・発展させて行く。 ・特別支援教室（通級教室）の運営については、市教委や拠点校（八中）と十分な連携を取る必要がある。 	A
健 全 育 成	<p>【体罰防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰に相当するような事象は発生しなかった。生徒を傷つける発言の減少を図った。 ・全生徒に対し体罰調査を年1回実施した。記載があった生徒には、管理職が直接聞き取りを行い、適切な対応を取った。 ・全教員が顧問にあり、複数顧問制度を原則とした。 ・管理職（副校長、校長が全部活動を巡回（週1回以上）した。 <p>【合唱推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱を通じて、社会性・自己有用感を高める。 ・合唱の取り組みを充実し、所属団体をまとめる体験をもった。 ・学校行事で、合唱の機会を多く設定し、自己有用感を高める。 ・校長自身が、音楽の授業を参観し、音楽科教員と連携し、合唱による人間性の充実を図った。合唱の成功体験で自己有用感の高揚が推進された。 <p>【人権尊重と平和教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック推進校の取り組みを通じ、国際理解教育を行った。 ・障害者スポーツの実態に触れ、障害者への配慮を知った。 ・オリンピックに関連させ、平和教育や国際理解教育を学活や総合的な学習の時間、各教科で実施した。 ・3月に、パラリンピック陸上選手との講演会と生徒の体験活動（盲自書誘導体験）を実施した。 ・障害者に対する「思いやり」の育成を、校長講話で実施した。教員も障害者に対する「思いやり」を指導した。 	<p>【体罰防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体罰防止は、中学生にとって一生の宝となる。生徒が充実した部活動をできるよう、体罰の根絶を望む。 ・教員の言葉遣いを含め、研修をより充実させてほしい。 <p>【合唱推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭（R1年10月実施）のレベルの高さに感動した。 ・生徒の熱心な熱心さが、近隣住民から高評価を得ている。 ・本年度の合唱祭は最高の水準であったと好評を得る。 ・合唱祭当日、生徒・教職員・保護者が一体になることができた。 <p>【人権尊重と平和教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会に参加した。放送機器が聞き取りにくく、早急に改善する必要がある。 ・と感じた。生徒の聴講態度は良かった。 ・講演会（R1、12月、命の授業とR2、3月、視覚障害者）を聴き感動した。傾聴する生徒の態度も大変良かった。 ・盲自書誘導体験は、生徒と一体感がある良い取り組みだった。 	<p>【体罰防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数顧問制度や管理職の巡回によって、体罰の発生は未然に防ぐことができた。しかし、信頼関係の醸成不足から、生徒を傷つける発言や保護者とのトラブルが若干発生した。部活動の円滑な運営について、研修を深めたい。 ・全教員が顧問にあり、複数顧問制度を継続する。 ・外部指導員との教育連携が不十分でなかった。外部指導員の活用方法を改善する必要がある。 <p>【合唱推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭の取り組みを充実し、所属団体がまとまる体験を多くもつ。 ・学校行事で、合唱の機会を多く設定し、自己有用感を高める。 ・校長自身が、音楽の授業を参観し、音楽科教員と連携し、合唱による人間性の充実を図る。合唱の成功体験で自己有用感の高揚を推進する。 <p>【人権尊重と平和教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツの実態に触れ、障害者への配慮を知る。 ・オリンピックパラリンピックに関連させ、平和教育や国際理解教育を学活や総合的な学習の時間、各教科で実施する。 ・人権意識の高揚を、スポーツ（部活動・保健体育）と音楽活動（合唱）を通じて図る。 ・教育活動（行事・教科・特別活動等）全体に、平和教育推進をカリキュラムマネジメントする。 	B
健 康 な 体 づ くり	<p>【食育推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育バランスの重要性や機会がもたらす悪影響に関する正しい知識を、家庭科や総合的な学習の時間で身に付けた。 ・食物アレルギー未然防止の正しい知識を取得するとともに、事故発生時に対応できる訓練を実施した。生徒自身の緊急対応力を養成した。 ・給食準備時間に、給食委員が作成した、当日の献立に関する食育内容を、放送委員会がアナウンスした。月に12日（20日の給食中）食材や献立について調査することは、給食委員にとっても、聴取側の生徒にとっても大変良い食育であった。 ・教職員対象のアレルギー対応研修を2回（7月、1月）に実施した。 <p>【健康推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動することの喜び、体験に重点を置いた教育活動を実施した。 ・運動（部活動、保健体育等）を通じて、健全な肉体と精神の関係を知った。 	<p>【食育推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育を大切にする」を育てていただきたい。 ・給食委員会の調べ学習活動はとても良いことだと思う。保護者をもめたい給食にもっと、アピールした方がよい。 ・外部を充実させ、給食を通じ、食育を推進してほしい。 <p>【健康推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭の動きを見て、生徒のパワーを強く感じる。生き生きとした学校生活を感じた。 ・生活（特に運動系）をもっと充実させ、より活気のある学校作りを目指してほしい。 ・学校内が清潔になり、衛生環境が良くなっていると感じる。 	<p>【食育推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「残食調査」を進め、小学校と連携した残食減少の取り組みを行う。 ・生徒会活動委員会（給食委員会・放送委員会）を通じて、食育の推進を図る。 ・給食準備時間に、給食委員が調査し、当日の献立に関する食育内容を、放送委員会がアナウンスする。 ・月に12日（20日の給食中）食材や献立について調査することは、給食委員にとっても、聴取側の生徒にとっても大変良い食育となっているので、継続する。 <p>【健康推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動系の部活動の指導に、「指導と評価の一体化」を活用し、練習の効率向上を図る。 ・全生徒（運動の不得手な生徒を含む）が、運動を喜びを体験できるよう、指導者は指導内容や発言を工夫する。 ・保健体育の授業に「主体的・対話的で深い学び」を取り入れる。 	B
地 域 に 関 与 す る	<p>【地域貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内清掃活動や地域奉仕活動に積極的に参加（年間20回以上）し、社会への貢献体験を通じて意欲向上を図った。 ・地域イベントへの参加や高齢者施設訪問を年間5回以上行った（合唱部・吹奏楽部・防犯ボランティアチーム）。 ・挨拶指導を徹底し、相互理解を進めた。 ・外部人材活用： <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導補助員に、地域人材や卒業生を可能な限り活用し、地域と学校の連帯感を育成した。 ・学校支援地域本部を開設し、地域人材の協力を、不登校対応教室や地域清掃活動等で得た。 	<p>【地域貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練に、ボランティアチームに参加して貰い、助かった。 ・今後も継続してほしい。 ・地域清掃、防災訓練に留まらず、活動範囲を拡大すると良い。 ・外部人材活用： <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導補助員や学習支援に、地域人材を活用することは、地域と学校の連帯感を育成する大変良いことである。 	<p>【地域貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃実施事業所との連携を深め、日常的（職場体験期間以外）な交流活動へ範囲を拡大する。 ・地域自治会や健全育成会と連携を拡大実施する。 ・生徒の発表や企画を尊重したり取り組みを行う。生徒の達成感や就労感を高揚させる。 ・外部人材活用： <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導補助員に、地域人材や卒業生を可能な限り活用し、地域と学校の連帯感を育成する。 ・地域学校協働本部が主導し、地域人材をより活用する。不登校対応教室や地域清掃活動以外にも活動を拡大する。 	B
特 色 あ る 教 育 活 動	<p>【部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通じて、人形格闘を図った。 ・「強い精神をもつ。」「自主的に活動できる人間になる。」 ・他人の苦しみを理解できるようになる。」「周りの人に感謝の気持ちをもつ。」「苦境を乗り越える解決策を発見できる。」「社会を牽引する能力を養う。」「組織的な行動の重要性を体験する。」 <p>【国際交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見発表の機会を多く多く設定した。自己の主張と他者意見の受容を体験した。 ・英語、社会、道徳、総合的な学習の時間等を通じて、国際理解の考え方、コミュニケーション活動による国際理解体験の喜びを知った。 ・総合的な学習の時間や教科の授業に、意見発表の機会を取り入れた。他者の意見を受容するように指導を工夫した。 ・英語少人数授業（全学年全授業）で、表現活動を多く組み入れた。 ・生徒の意見と教職員の意見の連携を大切にした学校改善を、相互的に実施した。 ・生徒自身が学校改善に直接参加している自覚をもてるよう、学校行事、生徒会行事に工夫を加えた。 ・「生徒会役員と管理職の意見交換会」を定期的に実施（月1回）し、生徒の意見を管理職が直接吸い上げた。 ・生徒協議会（委員長+生徒会役員+学年委員）を定期的（年10回程度）に開催し、組織として機能させた。 <p>【いじめ防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの防止に全生徒が直接参加する内容の取り組みを行った。いじめ防止の意識を高めた。 ・校長が、直接生徒に「いじめ防止」の呼びかけ、生徒のいじめ防止の意識を育成した。 ・全生徒が直接参加する「いじめ防止」の取り組みを、生徒会主催で年1回、期間を確保（2ヶ月程度）して実施した。 <p>【防災教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を充実し、自発的に安全性を高めようとする生徒を育成した。 ・ボランティア精神を育み、地域や社会の安全、危機管理に貢献した。 ・避難訓練を毎月実施した。 ・消防署や地区協議会等と連携を密に取り、避難所運営に改善を重ねた。四つ葉学校防災会議を月に1回開催した。 <p>・生徒ボランティア集団（80名程度）を結成し、定期的（月1回程度）にボランティア（人命救助、避難所設置等、消防訓練等）訓練を行った。</p>	<p>【部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の部活動が熱心になると、地域から好評を得ている。 ・学校選択制： <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が増えた一因であると考えられる。 ・外部指導員向けの引率でも、練習試合の引率ができるように、メールや視程を作成した方がよい。 ・本校生徒の地域住民に対する挨拶の態度が、多くの関係者から賞賛を受けている。 ・「留学生が先生」の取り組みが復活してよかった。 ・オリンピック・パラリンピックを通じて、国際交流を推進してほしい。 <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から、四中生徒のあいさつの良さをしばしば褒められる。 ・生徒会を中心とする、あいさつ運動・地域清掃・いじめ防止の取り組みがとてもよいことである。 <p>【いじめ防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で、生徒側の数値と教員の感じ方に差異があることがある。 ・要注意である。 ・全生徒の「いじめ防止スローガン」作成は、素晴らしい。 【防災教育】 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員講演会参加時の生徒の態度が素晴らしい。訓練に対する向きさはもちろんだが、休憩時間との切り替えが特に良かった。 ・ボランティアチームの地域防災訓練に参加し、感謝している。 ・ボランティアチームの取り組みは、素晴らしいことである。 <p>次年度以降</p>	<p>【部活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」に重点を置いた指導に取り組み、生徒の意欲向上を図る。 ・小集団や評価の「強い精神をもつ。」「自主的に活動できる人間になる。」「主体的・対話的で深い学び」を活用した部活動経営を心がける。 ・勝利至上主義にならず、全生徒が自己有用感や達成感をもてるよう指導する。 <p>【国際交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教科で、意見発表の機会を多く設定する。自己の主張と他者意見の受容を体験する。 ・英語、社会、道徳、総合的な学習の時間等を通じて、国際理解の考え方、コミュニケーション活動による国際理解体験の喜びを知り、 ・総合的な学習の時間や教科の授業に、意見発表の機会を取り入れる。他者の意見を受容するように指導を工夫する。 ・国際交流、国際理解の視点を教育課程全体の中で意識するよう、カリキュラムマネジメントを行う。 <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見と教職員の意見の連携を大切にした学校改善を、相互に行う。 ・生徒自身が学校改善に直接参加している自覚をもてるよう、学校行事、生徒会行事に工夫を加える。 ・「生徒会役員と管理職の意見交換会」を定期的に実施（月1回）し、生徒の意見を管理職が直接吸い上げる。 ・生徒協議会と生徒会執行部を連携させる。委員会を組織として機能させる。 ・いじめ防止 <ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が直接参加する「いじめ防止」の取り組みを、生徒会主催で年1回、期間を確保（2ヶ月程度）して実施する。 ・近隣小学校と連携した「いじめ防止」研究会（教職員、児童生徒間）を実施する。 ・近隣小学校（若葉小、遠坂小、頤和小）と連携を図り、相談体制を強化する。 <p>【防災教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアチームの活動範囲を防災だけに留めず、広く地域に貢献する。 ・生徒会委員の精神を育み、地域や社会の安全、危機管理に貢献できるようにする。 ・避難訓練や防災教育の日に、消防署や地区協議会等と連携を密に取り、避難所運営に改善を図る。四つ葉学校防災会議を月に1回開催する。 ・ボランティアチームを拡大、増員（100名程度）する。 	A